

平成 20 年度 河川整備基金助成事業

水防災拠点としての「鎮守の森」に関する調査研究
報 告 書

平成 21 年 5 月

彩 の 川 研 究 会

はじめに

この報告書は、平成 20 年度の彩の川研究会が実施した『^{みずぼうさい}水防災拠点としての「鎮守の森」に関する調査研究』の結果をとりまとめたものである。なお、調査の進行に伴い予測を上回る資料や課題が生じたため、本調査は平成 21 年度も引き続き調査研究を行う予定である。本報告書はその中間とりまとめに位置づけられるものである。

「鎮守の森」は、その土地本来の樹木によるふるさとの森であり、地域の守護神を祀った社寺林である。埼玉県東部や荒川沿川の低平な洪水氾濫地帯では、私的な水防災施設としての「水塚」に対して、「鎮守の森」は公的な水防災拠点としての機能を有していたのではないかと考えられる。

戦後の高度経済成長に伴う人口集中による都市化の中で、「鎮守の森」は激減の一途を辿った。彩の川研究会は、埼玉県内における過去の分布、現存地について調査し、その機能を検証して、保存と復元再生策を研究することにより、地域の水防災拠点の構築ならびに環境の整備に資することを目的に、本調査研究を実施するものである。

当研究会は、埼玉県在住の（社）日本河川協会会員で構成されており、知識と経験豊富な会員の能力を活用して、利根川・荒川の氾濫原・低平地を対象に、県土整備事務所所管区域をベースに 4 つの班を編制して調査にあたった。

今年度調査では、文献・資料、聞き取りおよび現地調査を実施して、洪水時に避難場所となった社寺の記録を文献・資料により確認するとともに、社寺の実態を調査票にとりまとめた。この結果、「鎮守の森」が過去の大水害時に水防災拠点として機能していたことが確認された。

次年度調査においては「鎮守の森」についてさらに実態について調査を進めるとともに、私的な水防災施設である「水塚」に関する調査も併せて行い、これらの保全ならびに復元の可能性、その方策を研究する予定である。

彩の川研究会会長

小林 寿朗

目 次

第1編 水防災拠点としての「鎮守の森」

第1章 調査研究概要	1
1 - 1 . 調査研究の目的	1
1 - 2 . 調査研究の内容	1
1 - 3 . 調査実施体制	2
1 - 4 . 調査の方法	2
第2章 調査結果の概要	5
2 - 1 . 洪水氾濫時に鎮守の森へ避難した実績記録	5
2 - 2 . 鎮守の森へ避難した洪水	8
2 - 3 . その他の氾濫原の社寺	15
第3章 埼玉平野の洪水氾濫といくつかの「鎮守の森」の特徴	17
3 - 1 . 埼玉平野の広域にわたる洪水氾濫	17
3 - 2 . 大聖寺周辺の地形と洪水	33
3 - 3 . 『大水記』と久下戸氷川神社	40
3 - 4 . 吉見町の稲荷神社	46
3 - 5 . 旧妻沼町の洪水被害と大野の稲荷神社・日向の長井神社	47
3 - 6 . 本庄市堀田の諏訪神社と22年9月洪水	50
第4章 班別の調査結果(調査票)	57
4 - 1 . さいたま・越谷	57
4 - 2 . 朝霞・川越・飯能・東松山	91
4 - 3 . 本庄・熊谷・北本	127
4 - 4 . 行田・杉戸	143

第2編 勉強会・現地視察

第1章 河川勉強会	147
第2章 第1回現地見学会	150
第3章 第2回現地見学会	153

第1編 水防災拠点としての「鎮守の森」

第2編 勉強会・現地視察

編集会議

この報告書の編集は、企画部会のメンバーと調査班の班長等が編集会議を開催してとりまとめた。水防災拠点としての「鎮守の森」に関する調査研究の中間報告書として、今後の調査研究に役立つことができれば幸いである。

・編集会議メンバー

小林寿朗、前田猛彦、横倉輝夫、田中長光、桑島弘治、木内勝司

水防災拠点としての「鎮守の森」に関する調査研究
報告書

平成 21 年 5 月発行

(社)日本河川協会 彩の川研究会

問合せ・事務局

TEL 090-7420-9717

〒360-0243 埼玉県熊谷市間々田 243

この調査は河川整備基金の助成で行った。